

2024年8月 マーケット概況

資産クラス	指数	5月	6月	7月	8月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	38487.90	39583.08	39101.82	38647.75	-1.16%	15.49%
	グロース250	618.49	661.24	648.20	669.01	3.21%	-5.29%
海外株式	NYダウ平均	38686.32	39118.86	40842.79	41563.08	1.76%	10.28%
	S&P500	5277.51	5460.48	5522.30	5648.40	2.28%	18.42%
	NASDAQ総合	16735.01	17732.60	17599.40	17713.62	0.65%	18.00%
	MSCI EUROPE	2146.61	2095.46	2139.10	2218.54	3.71%	9.81%
新興国株式	上海総合指数	3086.813	2967.402	2938.749	2842.214	-3.28%	-4.46%
	SENSEX	73961.31	79032.73	81741.34	82365.77	0.76%	14.02%
海外金利	米政策金利 (FF金利)	5.50	5.50	5.50	5.50	-	-
	米国債10年	4.5025	4.3920	4.0334	3.9092	-	-
国内金利	政策金利 (無担保コール)	0.077	0.076	0.079	0.227	-	-
	10年物国債	1.0720	1.0420	1.0600	0.8940	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	157.31	160.83	149.98	146.16	-2.55%	3.62%
	ユーロ	170.54	172.30	162.35	161.46	-0.55%	3.72%
コモディティ	WTI (原油先物)	76.99	81.54	77.91	73.55	-5.60%	2.65%
	NY金 (先物)	2345.8	2339.6	2473.0	2527.6	2.21%	22.00%
不動産	東証REIT	1741.01	1724.02	1722.58	1758.05	2.06%	-2.71%
ヘッジファンド	HFRX指数	1446.53	1451.07	1461.81	1467.95	0.42%	4.09%

データ出所 : Refinitiv

【 7月の金融市場 】

8月の日本株式市場は、月初め3日間で日経平均の下げ幅が8000円に迫るという歴史的急落相場スタートしました。積み上がっていた円キャリー取引の巻き戻しが一気に進んだことが大きな要因になりました。ただその後は一転して大幅反騰となり、月末にはこの急落分をほぼ取り戻す波乱の動きとなりました。日経平均の月間騰落率は-1.2%と結局前月比ほとんど変わらずでした。月初の瞬間安値20%安からは大幅に値を戻しています。TOPIXはほぼ同様に-2.9%と小幅下落となりましたが、東証グロース250指数は荒っぽい値動きから逆に前月比+3.2%で取引終えています

米国株式市場は、月初は景気悪化懸念から急落となりましたが、その後は経済指標の改善や9月利下げ観測の高まりなどから、買いが優勢となりました。NYダウは、月末に最高値を更新するなど結局前月比+1.8%となっています。ハイテク株中心のNASDAQは+0.6%と終値としては先月に続き小動きとなりました

米国10年債金利は、月初に4%割れから一気に3.8%まで低下した後、4%を下回る水準で保ち合う動きとなりました。FRBが9月に利下げを開始するとの見方が改めて強まる一方、経済指標はまちまちだったことが背景です。

円相場は、米国の利下げ観測と日銀の追加利上げを受けて、前月からの対ドル上昇の動きが強まりました。7月末の150円水準から月前半には一時141円台まで円高が進みました。その後は徐々に円安に戻し、月末には146円近辺で取引を終えています。

大阪金先物は急激な円高要因により月前半には一時1000円幅以上の下落を記録しました。その後は国際金相場の上昇や円安反転によりほぼ下落分を取り戻す値動きとなりました。

【 今後の見通し 】

日本株は8月後半に落ち着きを取り戻していましたが、9月に入り再び波乱含みの様相となっています。米国で景気減速懸念がくすぶる中、相場をけん引してきたエヌビディア株の下落がハイテク株全体に波及しました。日経平均は7月高値から8月安値までの下落幅11270円に対して一気に70%を回復するなど予想以上のV字反騰相場ただけに、米国株大幅反落に対するこうした反応も止むを得ないでしょう。現在のところはファンダメンタルズの弱気転換というよりテクニカル調整の側面が強いと見ています。

元々9月は米国株の月間別パフォーマンスで成績が最もよくないというデータがあります。特に大統領選の年は、投票前の2カ月間に下がりやすいとのアノマリーがあり、それに沿った動きとも言えます。日本株も米国大統領選投票日あたりまでは上値が限定的となるかもしれません。ただ、重要な視点は、相当将来まで高成長を反映してPER40倍前後まで買われた米国テック銘柄の動向と日本株とりわけバリュー銘柄は切り離して考えてもいいのではということです。日経平均36000円台(9/5現在)の予想PERは15倍程度とアベノミクス以降の平均を下回る水準にあります。今後は米国株安や為替相場で一時的なマイナスの影響を受けても早期に回復する相場を想定しています。

円高反転による業績見直し下方修正には要注意ですが、ここからの円高圧力に過度な懸念は不要ではないかと考えます。8月の日本株急落要因の一端に急激な円高反転による円キャリートレードの巻き戻しがありました。その結果円キャリートレードの多くと投機筋の円売りポジションは解消に動いています。日銀の追加利上げの議論も当面は棚上げでしょう。波乱要因は減少しています。米国が急激な景気後退に陥らない限りドル円相場は徐々に安定に向かうと見ています。中長期の観点では、高配当銘柄のうち下落率の大きい主要銘柄の押し目買いが有効と考えます。9-10月の日経平均予想レンジは34000円~39000円です。

【 8月のヘッジファンド 】

米調査会社ヘッジファンドリサーチ者が算出する8月のヘッジファンド・インデックスは+0.42%と続伸しました。

8月の金融市場は月初から大きく動きました。米景気減速懸念から米長期金利が4%を割込むまで低下し、為替市場でドルが円に対して141円台に落ち込みました（円高）。それを受けた先進国の株価指数は軒並み下落、中でも5日の日経平均株価は過去最大の下げ幅（4,451円）を記録しました。その後、市場は持ち直し、DAX（ドイツ）やNYダウは月後半にかけて最高値を更新する動きとなるものの、9月になっても不安定な状況が続いています。

このような中、ヘッジファンドはマクロとCTAを除く戦略でプラスの成績となりました。

【株式ロング・ショート】(+0.78%) ※（）は前月比

月初に起こった株式市場の暴落ではテクノロジーやコミュニケーションセクターの下落が目立ちました。これらのセクターは成長期待から割高に推移する傾向があります。割高な銘柄を売り割安な銘柄を買うという基本戦略の下で多くのファンドは収益を伸ばしました。

【イベント・ドリブン】(+0.64%)

中東情勢や米大統領選など不安要因を背景に積極的なM&Aは減少しています。しかし日本においては、KKRの富士ソフト買収にベインキャピタルが対抗の意思を示したり、JTが米たばこ大手のベクター・グループを買収に乗り出したりと大型の案件が目立ちます。ヘッジファンドにとっては貴重な収益機会であり、今後の成績への貢献が期待されます。

【レラティブ・バリュー】(+0.98%)

米長期金利が低下（債券価格は上昇）し債券価格の上昇がファンドの評価を上げました。また、大きな価格の変動は銘柄間の裁定機会を生み、ファンドはそれを収益につなげました。米長短金利の逆ザヤも解消の方向に進み、スプレッドを買っていたファンドの収益に貢献しました。

【マクロ】(-1.49%)

米金利の低下によって、月初に104ポイント付近で推移していたドルインデックスは月後半に100ポイント近くまで下落しました。日本円で調達した資金を米ドルに交換して運用するキャリー・トレードはドル安の影響を受け苦戦しました。また、中東情勢の悪化等でドル圏に資金を移管していたファンドなども厳しい状況でした。

【CTA】(-3.63%)

株や債券などのボラティリティが上昇し、取引を縮小する動きが目立ちました。緊急的にポジションを解消する場合には損失を伴うことが多く、成績の下落に繋がったと思われます。また、乱高下の市場ではトレンドフォロー戦略（動いた方向に賭ける）は殆ど効果がありませんでした。

ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）

	年初来	2024年					
		8月	7月	6月	5月	4月	3月
ヘッジファンド・インデックス	4.09%	0.42%	0.74%	0.31%	0.60%	-0.54%	1.26%
株式ロング・ショート	6.67%	0.78%	0.71%	1.21%	1.25%	-0.80%	1.35%
イベント・ドリブン	3.35%	0.64%	1.46%	0.03%	0.47%	-0.57%	1.06%
レラティブ・バリュー	3.29%	0.98%	1.18%	0.29%	0.72%	-0.59%	0.53%
マクロ	1.89%	-1.49%	-1.11%	-0.74%	-0.51%	0.05%	2.50%
CTA	0.43%	-3.63%	-2.55%	-1.72%	-0.79%	0.80%	3.15%

データ出所：ヘッジファンド・リサーチ社

9月期末配当・優待銘柄

足元の日経平均株価は、7月に高値42,426円を付けて以降、調整局面が続いており、先月5日には前営業日比4,451円安と過去最大の下げ幅を記録しました。現在はそこから徐々に戻し歩調となっており、今後も企業の自社株買いや個人投資家による押し目買いを背景に、底堅い動きになっていくと予想されます。

そんな中、今月9月末（権利付最終日＝26日）は多くの会社が決算を迎え、配当と株主優待が注目されます。依然、高配当でありながら割安である銘柄が多く、権利落ち後でも配当や優待相当額よりも株価が下落しない事や、戻りが早い事が期待されます。

株式投資において、最大の醍醐味は安く買って高く売る（高く売って安く買う）キャピタルゲインである事は勿論ですが、インカムゲインによる安定的で継続的な運用もまた魅力的であると思います。

これを機に、ご自身のポートフォリオを見直されても良いのではないのでしょうか。

注目の高配当銘柄

コード	銘柄名	株価(円)	予想配当利回り(%)
7201	日産自動車	427.8	5.84
5444	大和工業	7300	5.47
5411	JFEHD	2029	5.42
9104	商船三井	5200	5.38
5938	LIXIL	1726.5	5.21
9101	日本郵船	5153	5.04
5406	神戸製鋼所	1799	5
5076	インフロニア HD	1230	4.87
5401	日本製鉄	3282	4.87
7261	マツダ	1230	4.87
6305	日立建機	3601	4.85
1808	長谷エコーポレーション	1806	4.7
6471	日本精工	750	4.53
4502	武田薬品工業	4349	4.5
8473	SBIHD	3561	4.49

※配当利回りは2024年9月2日終値現在のQUICKにおけるデータベースに基づく。

なお、時価総額が3,000億円以上の銘柄を選出。

注目の優待銘柄

コード	銘柄略称	株価 (円)	権利月	優待内容
2226	湖池屋	5240	9月	100株で2,500円相当の自社製品
2737	トーメンデバイス	6030	9月	100株でオリーブオイル詰合せ等
2917	大森屋	989	9月	1000株で6,000円相当の自社製品
3096	オーシャンシステム	1122	3月・9月	200株で株主優待米3kg等
3088	マツキヨココカラ& カンパニー	2276	3月・9月	100株で自社店舗で利用可能な割引券 2,000円他
4665	ダスキン	3800	3月・9月	100株で自社店舗で利用可能な割引券 1,000円
4680	ラウンドワン	865	3・6・9・12 月	100株で自社店舗で利用可能な割引券 500円他
4951	エステー	1551	3月・9月	100株で1,000円相当の自社製品
5401	日本製鉄	3282	3月・9月	1000株で工場見学へ招待(抽選)
5838	楽天銀行	3360	9月	100株で円定期預金(預入上限300万円まで)+0.25%の金利優遇
6678	テクノメディカ	1884	9月	100株で京都府産こしひかり2kg
8219	青山商事	1410	3月・9月	100株で自社店舗で利用可能な割引券(20%割引券)3枚
9039	サカイ引越センター	2553	3月・9月	300株で岩手県産ひとめぼれ 5kg等
9348	ispace	652	9月	100株で「ミッション2記念」株主優待
9831	ヤマダHD	454.8	3月・9月	100株で自社店舗で利用可能な割引券 1,000円

※どの優待内容も原則、最小単位のものを表示しています。

そのため、株数によっては優待内容が異なる場合があります。

※株価は9/2の終値。

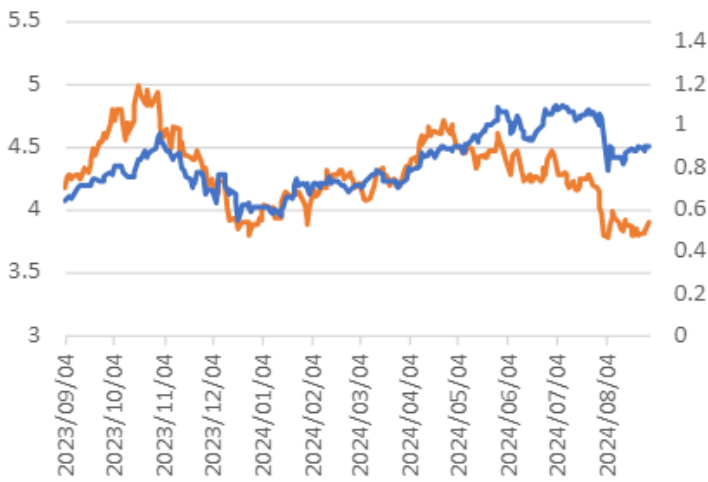
日経平均



NYダウ



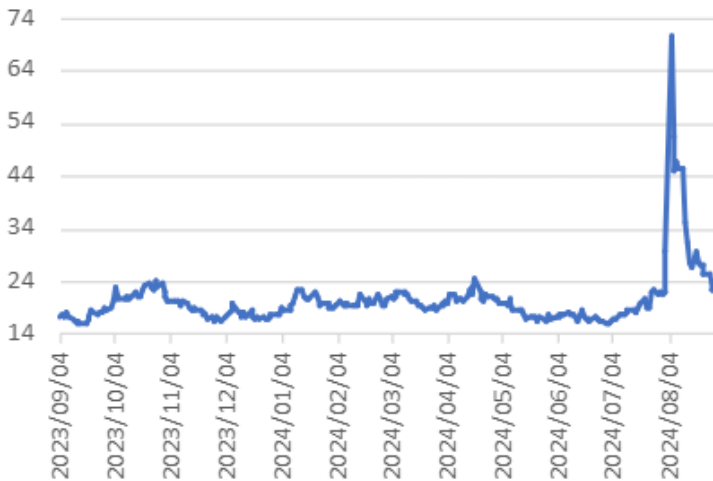
— 米国10年債利回り — 日本10年債利回り



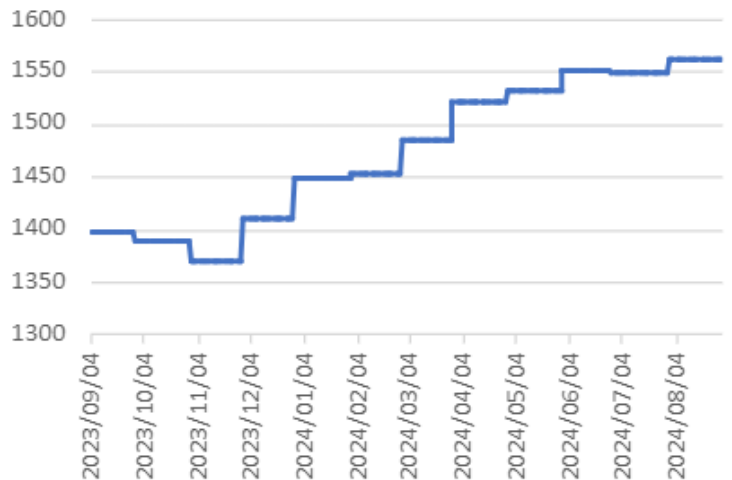
— ドル円 — ユーロ円



日経VI指数



Bloomberg全ヘッジファンド指数



<執筆者>

株式・債券・為替

… 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド)

… 樋爪 功次

そうだったのか! 「知って納得、証券投資」 Vol. 182
9月期末配当・優待銘柄

… 金井 良記

<編集責任者>

樋爪 功次

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。
本資料の表・グラフのデータ出所：REFINITIV、Bloomberg 他

K 光世証券

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

